

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2571200225		
法人名	医療法人社団 眞下胃腸科医院		
事業所名	大宝の郷		
所在地	滋賀県栗東市糺8丁目17番54号		
自己評価作成日	平成25年8月20日	評価結果市町村受理日	平成25年10月10日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人 ニッポン・アクティブライフ・クラブ ナルク滋賀福祉調査センター		
所在地	滋賀県大津市和邇中432番地 平和堂和邇店2階		
訪問調査日	平成25年9月10日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

開設9年になり、介護度3以上の方が約半数を占め、高齢と重度化が進んでいます。この一年間で4名の方の看取りを行い、ターミナルケアの実践に取り組んでいます。職員は、ご家族様の思いを聞き、入居者様がその人らしく個々に合った終末期を過ごせるように努力しています。ホームは診療所と密に連携をとり医療のバックアップを得ながら安心して尊厳あるターミナルケアを目指しています。

日常は、できるだけ家庭的な環境の中で生活していただくために、食事は介護職員が入居者様と地域のスーパーにお買い物に行き手作りの食事を提供しています。体操やレクリエーションも工夫して個別の支援を心がけています。また、地域に開かれたホームとして学校や各種団体の見学等も積極的に受け入れています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は開設9年目を迎え、要介護度の高い利用者も多くなっているが、ケース記録や申し送り書の共有により充実したチームケアを提供している。運営する医療法人の力も活かし利用者、家族の希望に沿った看取り介護に対応し、実際に看取った利用者の家族から感謝の声も届いている。利用者の楽しみである食事は畑で収穫した野菜などで季節感を取り入れたメニューを作り利用者も一緒に買い出しや調理を行って、楽しい食事時間を過ごしている。日常の散歩、季節ごとの花見外出やドライブを通して利用者の気晴らしや外気浴に取り組んでいる。家族とは納涼祭や毎年12月に開催する家族会を通して交流を深めている。市に協力し認知症講座開催や独自の認知症相談会などで地域に貢献するとともに地域での存在感を高めている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を 掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求 めていることをよく聴いており、信頼関係ができて いる (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面が ある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域 の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係 者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理 解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表 情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満 足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく 過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにお おむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟 な支援により、安心して暮らさせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	玄関(一階二階)や事務所に理念を掲示し、全体会議の際に全員で唱和し、理解・実践に繋げている。職員一人ひとりの名札の裏面に明記している。	「・・・地域に開かれた福祉の場を目指す」など4つの理念を作り事業所内に掲示するとともに、職員会議の冒頭で唱和することを習慣とし、会議での討議では理念に照らした判断をするよう心掛けている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	小学校の福祉クラブ、中学校の体験学習4名、農協の朝市との交流、理髪店、美容院の利用を定期的に依頼している。	自治会に加入し地域行事に参加するとともに、地元小、中学校とも交流を持っている。事業所の喫茶室は地域に解放し、事業所主催の認知症相談会も開催して地域住民の参加を得ている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	キャラバンメイトの養成講座に参加(職員5名)して、認知症の啓発の発信に努めている。7/27地域の開催するミニ講座(地域包括主催)にてホームの紹介をする。又ボランティアの受入れしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議は2か月に一回開催している。現状の報告、今後の取り組み等説明し、意見・情報交換し協力を得てサービスの向上に努めている。	会議は行政、地域代表者の出席のもと隔月に開催し現状報告や行事の説明などを行い意見交換をしている。評価結果についても開示し、改善策について説明している。会議内容の議事録への記載が不十分である。	議事録には出席者の肩書や、会議で討議した内容を具体的に記録し残しておくことが望ましい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議の委員である地域包括との連携を活かし、認知症の啓発と介護の相談会、ミニ講座実施の提案をし、協力を得て取り組んでいる。	地域包括支援センターや長寿福祉課とは日常的に連携を持ち事業所の状況を報告し相談もしている。包括支援センターの要請を受け「地域で支える認知症」講座をコミュニティセンター大宝で開催している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関の施錠はしているが、極力拘束しないように努め危険の無い様に見守りを強化して即対応できるように取り組んでいる。毎年職員は身体拘束セミナーの研修を受けている。	拘束ゼロセミナー受講を職員に義務づけている。玄関は徘徊発生を受け6年前から警察署の指導で家族の了解を得てセンサー付施錠としている。職員の見守りで利用者の外出希望には即応するようにしている。	玄関はセンサー付き施錠で、利用者が近づけば職員が迅速に駆けつけ一緒に外出するなど拘束感のない対応をしているが、今後に向けて施錠しない方を更に検討してほしい。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止の研修に順番に参加し学んでいる。又関わり方を考え連携に努めている。「目に見えない言葉の暴力」という点で職員一人ひとりが意識して注意し合う関係づくりに努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	講習に参加している者が報告しているが、個々に学び、理解と活用に繋がっていないので、学ぶ機会が必要である。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	時間をかけて理解、納得いくように説明をしている。専門的な項目は各担当の者が詳細に説明をしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	生活の中での言動、行動から希望や意向・思いを汲み取るように努めている。年1回の家族会開催アンケートを実施し運営に反映している。	平均月1回の家族訪問時や毎年12月にクリスマス会を兼ねて開催する家族会などで交流を深め意見を聞いている。要請で居室の更なるバリアフリー化を実施した。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	2か月に1回の全体会議、毎月1回のカンファレンスを開催し意見や提案を聞き反映している。	「業務日誌」「申し送り書」は必ず管理者、施設長が目を通し、日常的に職員との対話を心掛けている。職員のスキルアップ目標について定期的に面談している。チェア・浴器具など介護用品について提言により購入した。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	人事担当者、管理者との個人面談を実施(5月)全職員が自己評価チェックし、目標を立て実践し向上心を持って働けるよう努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	資料の回覧、研修の案内をし、個々の段階に応じ受講して全体会議で研修報告をし「学ぶ」を共有し、ケアの向上に努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	滋賀県淡海グループホーム協議会に加入し研修交流会(8月に新人2年未満対象)に2名参加する。又定期的に勉強会を開いてサービスの質向上に取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居事前に情報を知り得、見学・面接を行い現状を把握して本人様の生活歴、環境を見聞きし、話し合い、細かく様子観察し、関わりを多く持ち、傾聴を心がけて本人の不安の軽減に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	アセスメントを繰り返し行い家族の思いを聞き不安を取り除くように努めている。困った事、不安心配等には面談を重ねて応えていく。又電話でもきちんと解るように対応し信頼関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	家族との面談を重ね本人さんの思いを傾聴し、まず必要としているサービスの提供を心がけている。又落ち着いて安心して頂ける環境整備と雰囲気作りに努めている(本人合った対応をする)		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	今までの経験を活かし、出来る事を見つけ一緒にしたり得意分野では力を発揮して役割を持って頂いている。又若い職員はアドバイスを受けるなど微笑ましい関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	誕生会や納涼祭などの行事への参加を呼びかけ、面会時には生活状況を報告し、家族の協力が得られる事は依頼して本人と家族の絆を大切にしている(毎月の新聞の発行)		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	友人知人に電話で会話をしてもらっている(本人の携帯) 郵便が定期的に届き、手紙を自筆で書いて楽しみ、馴染みの関係を継続できるよう支援している。	入居時のフェイスシートを活用している。家族を中心とした馴染みの人から定期的に利用者に手紙が届くよう働きかけている。地域サロンや美容院、スーパーに出かけ馴染みの関係継続に取り組んでいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	自由に会話したり配置を考え皆で楽しめるように支援している。お互い気の合う者同士の関係を配慮し、また孤立しない様に職員が間に入り良好な関係を保てるように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	来訪の受け入れをしたり電話連絡があれば丁寧に対応している。相談等の支援にも努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりの個性を尊重し日常生活の中で交わす会話・言動から本人の希望や意向を汲み取るような声かけに努めている。	フェイスシートによる把握に加え、利用者の日々変化する思いや意向などを「ケース記録」に詳細に記入し職員が共有している。意向表出困難者については所作、言動を通して思いを汲み取っている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	情報提供に基づいて把握し、個性を出せるように支援している。絵の好きな人、計算が得意な人等に合った対応を心がけている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日様子を記録し申し送りで全職員で共有し、協力し現状の把握に努めている。体調・生活リズム等考慮し、本人主体で見守りの中で過ごしてもらえるよう努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月担当の職員がモニタリングを行い、カンファレンスで検討し、話し合い共有し、連携を図り介護計画を作成している。	初期計画はケアマネジャーが作成し、以降毎月モニタリングを行い、サービス担当者会議で3か月ごとに計画を見直し都度家族に説明し確認サインを得ている。急変時は医師の助言を得て即時計画を変更している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々同じ行動に対しては簡潔に記し、体調の変化、日頃と違う状態・行動・言動は詳細に個別の介護記録や連絡ノートを通して全職員で申し送りし、情報を共有し実践するように努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	必要に応じ個別のミニカンファレンスを開き、問題発生時には同GH医院との連携をとり、早々に解決できるように取り組んでいる。月2回の往診、ナースとの連絡体制等柔軟な支援をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	介護区分によってその人にできることは発揮できるように、民生委員、ボランティア、市の相談員、学校などの協力得て楽しむことができるよう支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	毎月2回定期的に往診がある。緊急時には付き添い受診をしている。又家族の協力が入居前からの専門医療機関の受診を行うこともある。	家族の了解を得て専門医を除く内科などについては、利用者全員経営母体の医院をかかりつけ医とし、受診には職員が付き添っている。受診結果は家族に連絡し状況を共有している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	体調に変化があれば同GH医院ナースと連携をとり、相談し、適切な指示を仰ぎ、受診や看護を受けられるように支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院の際には面会し状態を詳しく把握している。家族との連絡も密に取り、病院関係者との情報交換をし連携と協力を努めている。入退院時には介護、看護サマリーの交換をし相談ができる関係づくりをしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合における「看取り」の指針を作成し方針を十分に説明したうえで、家族の同意のもと終末期支援に努めている。家族の意向、希望を聞いて方針を共有し看取りの対応をしている。	事業所として「看取り指針」を作成し、家族の意向を確認して「看取り同意書」を交わしている。ここ1年で4名の看取りを行い、職員のスキルも向上している。「重要事項説明書」に看取りに関する対応方針の記載がない。	看取りは重要事項であり「重要事項説明書」に方針、考え方を記入することを望みたい。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	AEDの使い方、応急手当、基礎訓練、基礎知識を学ぶように努力している。対応方法の手順や説明は目につきやすい所に張り出している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災報知器、スプリンクラーを設置している。防災訓練は年2回(5月11月)実施している。地震対策で居室のテレビ、タンスの配置を見直し、危険な物は家族の了解を得て撤去している。	年に2回訓練を夜間や早朝想定で実施し、うち1回は消防署の立ち合い指導を受けている。防災マニュアルを作り自衛消防隊を編成している。訓練に地域の人々の参加は実現していない。	万一の場合に備え、地域の協力が得られるよう訓練にも参加してもらって呼び掛けを望みたい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりとの関係を重視し、配慮した言葉かけ言葉づかいでの対応に心がけている。居室は全室個室で施錠可能で、日常生活のプライバシーは確保されている。	馴れ馴れしくなり言葉使いが不用意にならないよう管理者は職員に対して常に尊敬の念をもって接するよう指導している。気が付いた時は会議で事例を挙げてお互いに注意し合っている。個人情報関係は書棚で保管している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	外出等の声掛けをするが本人の思いに任せるように自己決定を促して支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事や入浴時間は決めているが、日常生活のパターンは基本的には個々のペースに合わせて希望に添えるように努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	近所の理髪店、美容院に行ったり困難な方は出張散髪をお願いしている。服装はその人らしい似あうおしゃれを支援している。できない方は職員が選んでいるがなるべく自己決定を促している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	毎食手作りをしている。季節感を考慮して利用者と職員で献立をたてている。嗜好調査し買い出しも利用者が出掛け、魚などは鮮度の良いものの見分け方を教えてもらっている。	利用者本位のメニューで食事やおやつを協力して作り一緒に楽しんでいる。誕生日には本人の希望メニューで食事とケーキを作り家族を呼んで全員で祝っている。利用者の希望により外食にも対応している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎食事、おやつ時に水分摂取量を記録し把握している。食事以外にも合間に声掛け促している。粥、ミキサー食等の状態の人は水分確保の為適時対応している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後自立の人は個々に声掛けにて口腔ケアを促し、介助の人は朝・夕に義歯洗浄し、寝たきり状態の人はガーゼにて口腔内をふき取る。毎晩義歯はポリドントで消毒し清潔保持に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの排泄パターンに応じてトイレ介助やオムツ交換をおこなっている。夜間は声掛け誘導し、失禁を減らし自立にむけた支援をしている。	布パンツ着用者1名、オムツ着用者4名、あとはリハビリパンツ着用者である。自立排泄できる人は5名程という状況である。個人別に排泄表で管理し、トイレで排泄できるようタイミングよく誘導を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	体操や散歩等でできるだけ身体を動かしてもらい水分摂取強化し、繊維の多い食事を提供し、便秘の予防に努めているが下剤の服用も医師の指示で個々に対応している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	2日1回声掛けをし、本人の希望や体調を考慮して個々に合わせて入浴を支援している。	主に午後と夕食後を入浴時間としているが、排泄がらみのシャワー浴などあり随時対応している。基本的に隔日入浴とし、ゆず湯や菖蒲湯で季節感も取り入れている。拒否者には時間をずらして入浴誘導している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	昼間は体操やレク等で過ごしているが、個々のペースで自由に居室で休息できるように支援している。就寝時間も一人ひとりのペースで眠れるように支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々の疾病を把握し、薬剤師と連携し薬の説明書の保管をし、いつでも副作用の確認ができる。個人の薬手帳がある。臨時処方ではケース記録に記載し、連絡ノートで服薬の確認に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	季節ごとに個別外出をしている。得意分野の力を活かし、調理・洗濯・掃除・畑仕事等の分担をし好きな役割を持てるように支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	毎月季節に応じて花見、イチゴ狩り、美術館等と計画を立て、個別に声かけし出掛けしている。希望があれば家族の協力を得て定期的に出かけられるように支援している。	高介護認定者も車椅子による外出支援をし、日常の散歩は外気浴や気晴らし策として実施している。初詣から始まり、菜の花、桜、紫陽花、紅葉など季節の花見を中心に計画的な外出も行っている。本人の希望で家族の協力を得て行う個別外出も対応している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族の協力・同意のもとホームで預かり管理している(毎月の出納帳は家族に郵送し確認)。本人希望で所持している人もいるが安心とお金の大切さを持つことへの支援をしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族の了解を得た上で自由にできるように支援している。携帯電話を持ち、友人・姉妹家族に電話したり、絵手紙のやり取りをしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	四季折々の花を活けたり、毎月壁画飾りを利用者と作成している。リビングでは家庭的な雰囲気づくりのためのテーブル配置をし、安全確保の導線も重視している。個々が居心地よく過ごせるように座席の工夫をしている。	全体的にゆとりのある共用空間で、空調、照明なども適切である。壁面には季節を感じさせる飾りや花が生けられ居心地良さを工夫している。場所や日付の表示は大きな文字で分かり易い。トイレ浴室なども清潔である。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	互いに会話を楽しむことができるようにリビング・廊下・玄関・庭に椅子、ソファを設置し、くつろげる憩いの場所を提供している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室内は広々とし、ゆとりがある。今まで家で使い慣れた机や馴染みのタンスを置き、家族の写真や絵を飾り、以前の生活に近い環境になるように工夫している。	居室はバリアフリー化したフローリングでベッド使用となっている。補強や耐震面で問題のない家具、趣味の品を持ち込み家族の写真を飾り自分の部屋を作っている。掃除は職員が気を配り清潔に維持している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室には表札や写真を、トイレ・風呂等は案内表示をしわかりやすくしている。手拭きタオルは置き場所を決めて使いやすいようにしている。傾眠の時は、安楽椅子を提供し安全かつ自立した生活が送れるよう工夫している。		

2 目標達成計画

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。

目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	26	家族さんを交えてのカンファレンスができていない。本人の深い思い、家族の要望に応じられていないので即していない。全職員が介護計画に沿った話し合いを家族と共にできていない。	家族さんの参加により、意向・要望又困っていることや不安を聞き、介護計画に反映させ取り組み、現状に即した計画を作成できる。	毎月のカンファレンス時に家族さんの参加を働きかけ、粘り強く電話・文書郵送にて取り組む。又臨機応変に対応できるように面会時には説明をし、気軽に尋ねやすい雰囲気作りを心がける。	12ヶ月
2	35	開設より9年目を迎え地域にも馴染み、運営推進会議も定期的開催し充実しているが、災害対策等で、年2回の訓練時に地域との協力体制ができていない。	防火防災避難訓練に地域の人参加を実現できる。職員は利用者が避難できる方法を習得する。	万一の場合に備え、地域の協力が得られるように年に一度は訓練への参加を、自治会や運営推進会議等に呼び掛け、協力体制を築いていく。	12ヶ月

注)項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入してください。